

## 第 21 回中井町地域公共交通会議 議事録

日時：平成 29 年 6 月 2 日（金） 午後 2 時～

場所：中井町農村環境改善センター 2 階研修室

### 【会議次第】

1 開会

2 あいさつ

3 協議事項

(1) 平成 28 年度中井町地域公共交通会議収支決算（案）について **承認事項**（資料 1）

(2) 平成 29 年度中井町地域公共交通会議収支予算（案）について **承認事項**（資料 2）

(3) 中井町オンデマンドバス実証実験の登録状況と利用状況について（資料 3）

(4) 今後の交通体系の検討について（資料 4）

4 その他

5 閉会

### 【協議事項の議事】

3 協議事項

(1) 平成 28 年度中井町地域公共交通会議収支決算（案）について **承認事項**（資料 1）  
（事務局より（資料 1）平成 28 年度中井町地域公共交通会議収支決算（案）について説明、早野委員より会計監査報告）

会 長：収支決算について質問・発言はいかがか。

会 長：質問等なければ承認いただけるか。

－意見なし－

<承認>

(2) 平成 29 年度中井町地域公共交通会議収支予算（案）について **承認事項**（資料 2）

（事務局より（資料 2）平成 29 年度中井町地域公共交通会議収支予算（案）について説明）

会 長：収支予算について質問・発言はいかがか。

会 長：質問等なければ承認いただけるか。

－意見なし－

<承認>

(3) 中井町オンデマンドバス実証実験の登録状況と利用状況について（資料 3）

（事務局より（資料 3）中井町オンデマンドバス実証実験の登録状況と利用状況について説明）

会 長：毎回報告をもらっているが、概ね傾向は今までとあまり変わらない。利用者は、受付が可能なほぼ上限で推移しているかと思う。質問等はいかがか。利用状況は、次の議題の中で色々出てくると思う。参照いただき、発言あればいただきたい。

(4) 今後の交通体系の検討について (資料4)

(事務局より (資料4-1) 今度の交通体系の検討について、(資料4-2) 道路運送法の事業区分、(資料4-3) デマンドタクシーの運行イメージ(案)、(資料4-4) コミュニティバス(町内循環バス)の運行イメージ(案)について説明)

事務局：説明の検討案をすべてそのまま実施するという事ではないが、町としては、検討案②・③を中心に考えていきたい。運行事業者にも実現性や実現に向けた課題、費用面で相談を続けたいと思うが、こちらを行うとした場合、新たなシステムを構築することになるため、認可や町民への周知等を考えると、次年度当初より動き出すことは、時間的に困難と考える。②・③に限らず、次の運行システムが整えられるようになるまでは、検討案①や検討案⑥を併用しながら、進めていきたいと考えている。

会 長：理屈としてできるものを全部書いてもらった。これ以外には、ほとんど方法はないと思う。この中で組み合わせをしていく、そして、その時にどういう人のどういう移動を重視して公費を使っていくかというあたりを、最終的には町民で協議をして進めていくことかと思っている。色々質問をいただけるとよい。事業者からも積極的に発言いただきたい。

委 員：今まで、このオンデマンドバスは、交通空白地域や路線バスとの共存共栄といったものを狙いとして実施してきたが、交通空白地域は果たして空白地域かどうか。バス停から300m以上という定義があったかと思うが、中井町として本当の交通空白地域はどういったものと考えていけないのか。

40人というのは、地形的に見れば当然と思う。規制緩和により路線バスがかなり廃止され、その中で町は路線バスとの共存共栄として、例えば、役場までオンデマンドバスで出てきてもらい、あとはそれぞれ最寄りの駅には路線バスを使うというような考えのもとに実施してきたが、地形から見て、中井町は全く当てはまらない。それを考えた時に、もう少し今の利用状況を一度詳しく検証してみる必要があると思う。

費用は3,000万円で、一回が3,400円である。最初は、5,000円や6,000円近くかかっていた。このような状況で果たして町の財政が支えられるのか。そういう問題を踏まえて、行政サービスとして、どの辺りまでお金をかけていくことができるか。

問題は、交通空白地域の小中学生。例えば、福祉有償サービスは社会福祉協議会

でやっているが、利用者は限定されている。買い物利用で、井ノ口に商業施設ができたから、二宮と秦野の商業施設の乗降ポイントをなくすと考えるのも一つだが、特定の小中学生は、また別の特化した何かを考えていく等、広く考えていく必要があると感じる。

会 長：どのような人たちのどのような移動は、町である程度面倒を見たいかどうか。その中で、この会議で議論する枠組みの乗り物で、対象にしていくものと、それ以外のものとなる。例えば、スクールバスと完全に限定してしまうと、議論はこの会議の外になるが、役割分担をしていくのかどうか入口はこの会議で議論するのだと思う。どこの人のどのような人のどこへ何をしに行く需要を町としてより重視していくかというところは、どこかで整理をしたい。事務局が最初に案を出していただくのがいいと思う。

今日は費用の話はないが、いずれは出さないといけない。そうした時に、より町で面倒を見なければいけない人が、1回1移動 3,000円かかる方法となっても、これ以外に方法がなければ、それは3,000円なのかもしれないし、1,000円、500円、200円でできそうだとということになるかもしれない。そういった、順番に何か話ができるように、事務局も提案をいただくといいと思っている。

会 長：町として財政出動するという意味では、あまり優先度が低い人で非常に頻繁に乗っている人がいるようだ、という事は事務局より報告いただいた。一方で、交通不便地域といわれる、困っているだろうと我々皆で思っている地区の方々が本当に乗っているのかという話は、今日はあまり議論していない。交通空白地域は大切だと言っているが、実は全然使っていなかったということがあれば、これは考えなければならないので、委員の発言の通り、きちんと検証しないとけない話だと思う。

会 長：オンデマンドバスに乗っていない人は、問題ない人だと考えていいかどうか。バス停の目の前に住んでいても、家で閉じこもっているようなお年寄りが一人で外出できないでいるとしたら、そこは交通不便地域ではないが、町や社協など公的なところが何らかの形で手立てを考えないといけない。交通不便地域ではないから考えない、ということでもいいかどうかは、一度議論した上で、判断かと思う。福祉部局の委員もいるので、そこはぜひ、交通部局だけではない所で考えていただくといいかと思う。他はいかがか。

委 員：今、約40名が乗っていて、それ以上乗れないというイメージの話だが、どこまでを限界と考えて、動いていくのかがわからない。もう1台増やすことも財政的に困難。では本当はどこを狙い、どこで歯止めをするのか、というのがはっきりしていないから、あれこれやってみよう、数字が出たがどうしよう、となる。進んでいくのはいいが、どこで止めるのか、ある程度線を引いておかないといけない。例えば、あと5年ほど経つと、我々の年代が全部免許証を返納してしまい、バスに乗る人が増えてくる。そのようなイメージでビジョンを立てていかないといけ

ない。小さい進め方には疑問を感じる。

会 長：大変重要と思う。事務局受け止めてください。

会 長：免許返納の話が出た。中井町の公共交通は、秦野や平塚に比べると不便ということになるが、私がこういった形で関わっているところで、もっと不便なところはたくさんある。谷沿いにほしい集落があって、一応そこにはバスがあるので公共交通不便地域としてはそんなにはないのだが、皆さんバスに乗らない。地域でバスを残していきましょうという話が出た時に、免許返納したらバスに乗るというが、おそらくそれはとても厳しい。乗りたくても生活の習慣になっておらず乗れないのではないかと思う。バスで何とか移動できるようなところに住んでいる人は多いと思うので、そういった人が免許返納になる前に時々バスに乗っていただいて、慣れてもらうような手立ては町も色々やっていかないといけない。そうしないと、オンデマンドです、何ですと言っても、移動しないで家で閉じこもってしまうのではないだろうか。すると、見えない所で問題が進んでしまうので、委員の発言の通りで、目に見えているようなところだけではなくて、免許返納のことも考えながら、5年10年後も継続可能なやり方で、この1、2年考えるというと思う。他に、個別具体で結構なので、いかがか。

委 員：オンデマンドバスは、やはり、もう少し先まで行ければ一番いいと思うが、今そこまで行っていないというので、小さなエリアで一生懸命やろうとしても、利便性がないのではないかと私は思う。オンデマンドバスで路線バスに乗り換える、乗り換えないというのではなくて、自分の目的近くまで行けるというのが一番だと思う。その辺りから考えて行かないと、だんだん利用は減っていくのではないか。私が住んでいるところは路線バスがあるので、オンデマンドバスに乗ろうと思ったことがない。自分の時間に合わせて路線バスに乗る。だから、比較的井ノ口地区はオンデマンドバスの利用者が少ないと思う。交通空白地域のところをバスに頼るかタクシーに頼るかという問題は先々すぐ出てくると思うが、先日、一般の人が駅まで送迎する、という地区がテレビで紹介されていた。町が全部管理して、電話をしたら何分以内にその人のところまで、一般のドライバーが迎えに行く形をとっていた。オンデマンドタクシーができなければ、あるところまでは中井町も一般の人が送迎するような仕組みもできるのではないかと思う。慣れていないことだから前に進まない。色々なことにまず慣れないといけない。

会 長：他いかがか。

会 長：色々ご意見いただいた。事務局から②・③の方向でということも言っていたが、今後どういった論点で進めて行きたいというあたりを事務局よりお願いしたい。

事務局：先ほど示した中で、次年度に向けてある程度すぐの実現可能な方法としては②と③で、デマンドタクシーと、ここで5年を過ぎるがオンデマンドバスの車両を有効利用した、新たな方法を探っていきたい。しかし、もう少し検証したらどうか

という話もいただいた。それらも含め実際に合う方法かということを検討していきたい。他に、いただいた意見を事務局で検討し、その方法について考えていきたい。ただ、この実証運行自体が今年度までということで、次年度に向けて、どのような形でやるかというのは、ある程度方向性を示していかないといけない。新たなシステムを導入するとなると、町民、利用者への説明をさせていただかないといけない。今年度で5年が経つが極力、間を抜かないような形で実証を続けながら方向性を説明させていただければと思う。

会 長：5年、10年前くらいまでは、バス停から遠い人をどうしようというのが公共交通の町の政策だったのが、今は、目の前にバス停があってもバスに乗らないで閉じこもってしまう人も含めて、出かけるきっかけを周りで作ってあげながら、外出を促して、そういった人たちが、生活の資質を高めるためにどうするか、という辺りに移ってきているのかと思う。オンデマンドバスを利用するというのは、何時にどこに行きたいという意思が明確で、移動の意欲もある人なので、予約のために電話をかけることもするし、語弊があるかもしれないが、困っていない人である。そういった人は、少し高いが仕方がないとタクシーを呼ぶかもしれないし、病院へ行かないといけないとなれば行く。しかし、閉じこもっている人というのは、用事があれば出るけど、用事がないので出かけない。

福祉の話になるが、買いものにもなかなか出かけなくて栄養状態があまり良くなくなっていくという人がいる。それらも含めての移動を町がどう支えていくか、それを白ナンバーで地域の人がやるのか、事業者にお願いしてお金を取ってやるのかというあたりかと思う。オンデマンドバスを始めたころは、交通不便地域に注目していたのが、世の中がだいぶ変わってきた。ぜひそこも含めて皆さんから知恵をいただき、現状や今後の懸念等言っていただき、事務局が色々と考えやすいようにしていただけたらと思う。他に、いかがか。

委 員：前年度から生活総合支援事業を行政で取り組んでいて、それを社協に委託したりして色々な地域でやっている。現実、中井町でも、福祉関係でボランティアの輸送サービスを行っているが、これは限りがある。先ほどの話のようなものをひとまとめにするのは、少し無理があると思う。小学生の通学の利便性を考えると、あるいは、福祉対策で、何ができるというのは、それはまたそれに特化した何かを考えて行くことが必要かと思う。一緒くたにすれば、何か無理があると感じる。知り合いで免許返納後にどこへも行けず元気がなくなってしまった人がいる。そういう人達を支えるのは、福祉的な観点から考えて行く必要があるのかと感じている。

会 長：現在の2台の車で全部それを受け止めるというのは絶対無理で、しかし、町が何かやらないといけないのは事実。2台ある車両も何年か経てば当然動かなくなるので、最終的に、どこかがきちんと受けるような形で特化したものがいくつかあるようになるのが一番よく、棲み分けができればいいし、一緒にやるのがもしよ

ければ、それで行う。今は、その手前でまだどうしようかという感じなので、その中で議論すればいいかと思う。救うべき人たちは誰か、それをどこで受け持つか、ということがはっきりすれば、この中で議論する乗り物はこれと言える、そういう話かと思う。現在の2台の車両で何ができるかと言ってしまうと、袋小路になってしまうのではないか。

会 長：3はこれから検討するというので、また意見あればいただけたらと思う。

#### 4 その他

委 員：今年8月に路線バスのダイヤ改正を行う予定である。今回は、中井町、二宮町、小田原市を含めた再編成の中でのダイヤ改正。特に中井町に関わってくるのが、比奈窪から国府津に向かう路線。現在、国01系統（橘団地、押切経由）と、国03系統（橘タウンセンター前経由）の2系統が走っている。平成28年3月29日に行った橘地区の再編において、平日14.5回を9回に減便。土休日は、逆に6回を7回に変更した。その後1年以上経つが、現在の利用実態を見ると、坂呂橋から比奈窪までの間は、1回当たり平日乗車人数が0.6人で1人に満たない。降車は0.38人という実態であった。通過人員も最高で夕方の方の1.43人であった。よって、今回のダイヤ改正について、この2系統については、運休扱いとさせていただくこととなった。

なお、比奈窪から出ている二宮系統については、中井町内でも13名の通過人員というのも実態の中であるため、今回は現状維持で運行する。昨年3月にできた、国道1号線と接点の押切バス停での割引制度もこのまま継続する。非常に財政状況が厳しく、利用実態に合ったやり方をせざるを得ない状況にある。二宮系統についても44回走っているが、利用実態を毎年見ていかなければならないので、これが先細りという事になると本当にオンデマンドバスとの接続など色々な問題も出てくると思う。皆様の力をもちまして何とか利用いただけるよう切に申し上げたい。

委 員：神奈中に伺いたい。何度も私たちは比奈窪から二宮までの運行を短縮して欲しいと言っていると聞いているが、会社には要望は届いていないか。

委 員：その話が出ていない。基本的には、集落の近くを昔の様に通っていくという手段を取っている。3月の改変の時には、下小竹は、橘団地へ入るという関係上、鋭角になってしまうので、そこは新道に振り替えたが、その他は聞いていない。

委 員：朝、時間がかかり過ぎるところが不満な人が多い。今利用している人からもそのような声がある。その間が早くなれば、もっと利用者も増えるのでは。

会 長：他いかがか。なければ、事務局から。

事務局：例年、オンデマンドバスの運行について国から補助をもらうために、皆様に中井町生活交通維持改善計画について、毎度協議いただいている。今年は国からの連絡が遅れているようで、この機会には間に合わなかったため、後日改めて書面協

議をお願いする可能性がある。その際は協力をお願いしたい。

会 長：ひと通り議事は終了した。委員の皆様から発言いかがか。特になければ、あとは事務局で整理いただきたい。

事務局：長時間にわたり、審議ありがとうございました。いただいた意見等について、事務局で精査させていただき、次回の会議に向け検討したいと思う。今年度で実証運行が終わるということもあるので、数多く会議を開いて皆様の意見等を伺いながら進めていきたい。可能ならば、次回は7月中くらいには開催したいと思っている。

以上

○出席委員：

中井町自治会連合会長 植木 清八

境地区バス利用対策委員長 及川 幸夫

東洋大学国際地域学部国際地域学科教授 岡村 敏之

神奈川運輸支局輸送担当運輸企画専門官 (代理) 高橋 涉

神奈川県県土整備局都市部交通企画課 (代理) 金岡 知世

神奈川県県土土木事務所工務部道路維持課 (代理) 直井 達郎

神奈川県松田警察署交通課 (代理) 佐々木 琢磨

神奈川中央交通(株)運輸計画部生活交通課 (代理) 吉野 茂

(一社) 神奈川県タクシー協会相模支部 露木 幸一

神奈川県交通運輸産業労働組合協議会 小泉 孝行

中井町副町長 加藤 幸一郎

中井町地域防災課長 曾我 裕之

中井町福祉課長 山口 秀俊

中井町まち整備課長 権守 章

中井町教育課長 山本 清和

中井町老人クラブ連合会長 阿部 昭道

中井町社会福祉協議会長 早野 茂

中井町商工振興会副会長 (代理) 曾我 和久

中井町PTA連絡協議会長 青木 正臣

中井の環境を良くする会代表 本多 力

○オブザーバー：

秦野市都市部公共交通推進課長 保坂 富士雄

二宮町政策総務部企画政策課企画調整班長 (代理) 竹内 伸介

○事務局：

中井町3名